

# やむを得ない 事情がありまして…



令和2年  
12月  
1日

## 市民しんぶん

### 主な内容

- 省エネ家電に  
買い替えるなら今……… 5面
- 【特集】  
人と動物が  
幸せに暮らすために……… 8・9面
- 現場最前線！  
ごみ収集のシフト……… 10面

### 今日のプレゼント

懐かしめるこ



7面

掲載記事・施設の情報は、ホームページでも閲覧できます。

⚠ 発熱などの症状があるときは、まずは近くのお医者さんに電話で相談を！

発熱などの  
症状がある方

まずは  
電話相談

#### 身近な医療機関

休日・夜間やお医者さんに相談できないときは  
**きょうと新型コロナ医療相談センター**  
☎414-5487 (24時間・365日対応)

新型コロナや  
インフルエンザが  
疑われるときは

検査を実施  
または  
検査可能な診療所  
などを紹介

**注意！** 急速に感染が拡大しています！ 寒い中でも換気・保湿を徹底しましょう！

12月3～9日は障害者週間

# 誰もが安心して暮らせるまちへ

マスクを着けたくても着けられない人がいることを知っていますか。  
新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、新しい生活スタイルの実践が当たり前となった今、日常生活の中で新たな課題に直面し、困っている人がいます。その困り事を知り、一人一人ができることを考えてみませんか。

問合せ 障害保健福祉推進室 ☎222・4161 FAX251・2940

## 新しい生活スタイルと障害のある方の暮らし

障害のある方の中には、「新しい生活スタイル」の実践が難しい方がいます。

例えば、マスクの着用、脳の障害や感覚過敏など、さまざまな原因で、マスクを着けると肌に痛みを感じたり、気分が悪くなったりと、体に異変が生じてしまうことがあります。

外出時には、当事者の方々もできる限りの感染防止対策に取り組みますが、周囲からは、マスクをしていないことで誤解されたり、心無い批判を受けることも。

この他にも、日常生活のあらゆる場面で、障害の特性や程度により、さまざまな困り事が発生しています。

当事者からは、こんな声も



### 障害によって、困り事はさまざま

#### 知的・発達障害



- 感覚過敏により、マスクが肌に触れると痛みを感じたり、気分が悪くなったりする。
- 人との距離感をつかむことが苦手で、身体的距離をとることが難しい。
- 状況の変化を理解することが難しく、これまでと異なる状況に混乱し、普通に行ってきた食事や入浴までできなくなってしまう。

#### 聴覚障害



- マスクで口の動きや表情が読み取れないため、相手の話していることが分からず、「ミネーター」がとれない。
- 電話での相談窓口が増えたが、利用することができない。
- オンラインの催しが増えたが、字幕対応していないと、参加することができない。

#### 視覚障害



- 安全な移動のために手引が必要だが、密接が避けられないため、声を掛けてくれる人が減った。
- レジに並ぶときに、前後の間隔を空ける目印が分からないため、人に近づき過ぎることがある。
- 接触感染が心配だが、手に取って大きさなどを確認しないと、どんな商品か分からない。

#### 肢体障害



- 手が不自由なため、マスクの着脱やアルコール消毒の動作が難しい。
- 車いすでは届かない場所に、消毒液が置かれていることがある。
- 車いすで外出中に、段差や坂道で手助けをお願いしたいが、頼みづらい。



12月1～20日は、年末の交通事故防止市民運動。運転免許の返納でお悩みの方は、最寄りの警察署などに相談を。



こんな場面に遭遇したら

その1 マスクを着けていない人がいる…

マスクを着けていない人を見たら、一概に否定するのではなく、「何か事情があるのかも」と想像してみてください。障害の特性や事情を理解し、思いやりの心を持って過激にしましませぬ。

その2 白杖を持っている方が困っている様子…

街中で視覚障害のある方が困っていたら、まずは近づいて自分が誰なのかを名乗り、「何かお手伝いしましょうか」などの声を掛けましょう。買い物物の補助など、サポートできることがあるかもしれません。

その3 耳が聞こえないようで、話が伝わらない…

身振りや筆談を用いて、「コミュニケーションをとりますよ。フェイスシールドなどを用いて口元が見えるようにしたり、難聴の方には、ゆめり」と大きな声で伝えるのも有効です。

大切なことは、相手を思いやり、歩み寄る姿勢。ちょっとした配慮が、障害のある方の負担を軽くすることにつながります。

市長からの便り

心のバリアフリーを目指して

困っている人を見かけたら、声を掛けてみませんか。感染を防ぐために、身体的距離の確保が求められているウィズコロナ社会。誰かに支援を求めたくても、気軽に声を掛けづら

い。これは、コロナ禍がもたらした新たな「障壁」といえます。こんなときだからこそ、心の距離を近づけ、支え合うことが大切です。

障害のある方の困り事は、その人の障害だけではなく、社会の「障壁」にも原因があるのではないのでしょうか。全ての人が暮らしやすい社会を実現するためには、その「障壁」を取り除く、私たち一人一人の「配慮」が求められています。

年末を迎え、人が集まる機会

が増える時期。新しい生活スタイルの徹底とともに、事情があつて実践が難しい方への配慮も心掛けながら過ごしていただく。障害のある人もない人も、全ての人が進い認め合い、支え合うまちづくりを共に進めてまいります。

京都市長 門川 大作

支援を必要とする「サイン」があります

ヘルプマーク

養正や養病、妊娠初期など、外見からは分からなくても、配慮や支援を必要としている方が身に着けるマーク。人によって必要な手助けは違うため、マークを着けた人が困っていたら、まずは声を掛けてみましょう。



ヘルプカード

障害のある方などが携帯し、困ったときに周囲の人に見せることで、必要な支援を受けやすくするカード。カードを見せられたら、記載されている障害の特性や病気に関することなどを参考に支援しましょう。



※ヘルプマーク・ヘルプカードは、区役所・支所などで配布中。

こんな意思表示も

マスク着用が困難な方は、着けられない理由を周囲の人に知らせる意思表示カードを身に付けている場合もあります。



感覚過敏研究所が作成したカード

障害のある方々が感染症対策に貢献

ほっとはあとプロジェクト

市内の障害者就労支援事業所が、感染症拡大防止に必要な衛生用品であるポリガウンを製作し、福祉現場などに届ける取り組み。現時点で410着を15カ所の施設に届ける予定です。



ご協力をお願いします!

ポリガウン製作に必要なポリ袋や養生テープの寄付を受け付け中。少量でも、製作する事業所へ取り次ぎます。※申し込みなどの詳細はホームページで紹介。

ほっとはあとプロジェクト寄付 検索

違いを認め合い自分らしく生きられるまちに

